

(7)バレーボール (精神障がい者の部)

1 チームの構成

- (1) 監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内とする。
- (2) 男女混合とする。ただし、試合中は常時1名以上の女性が出場しなくてはならない。

2 競技方法

- (1) 試合は、トーナメント方式により行うものとする。ただし、出場チーム数により、リーグ方式等変更して実施する。
- (2) ネットの高さは、2.24mとする。
- (3) 試合球は、日本ソフトバレーボール連盟公認ソフトバレーボール球・糸巻きタイプ（モルテン製円周78±1cm、重量210±10g）（S3V1500-WX）のものとする。
- (4) 試合は、3セットマッチ・ワンボールシステムで行うものとする。
- (5) 1セット25点のラリーポイント制とし、2セット先取したチームを勝ちとする。なお、第3セットは、いずれかのチームが13点先取した時点でコートの変更を行う。
- (6) 公式練習は、各チーム3分間とする。（ただし両チームが合同による公式練習を選択する場合は5分間とする。）
- (7) ラインナップシートは、セット毎に副審に提出するものとする。
- (8) サーブは、サービスライン（エンドライン）後方から行うものとするが、ネットに接触し相手コートにボールが入った場合はそのまま競技を継続する。ただし、6人制バレーボール国際競技規則に準じるためセカンドサーブはない。

3 組合せ

組合せまたは試合順は、大会当日の代表者会議において抽選のうえ決定する。

4 選手の服装

- (1) 選手の服装はユニホーム等で統一することが望ましいが、統一することが困難な場合は色やデザインの類似した服装に統一することを心掛けること。
- (2) 選手は、登録された番号の記されたゼッケンを身につけること。

5 その他

- (1) 練習球は各チームで用意すること。
- (2) この要領に定めるもののほか大会の実施に必要な事項は、代表者会議で申し合わせ事項を設けて協議することとする。

(7)バレーボール

(精神障がい者交流会の部)

1 試合形式

- (1) 出場チームを3つに分けた予選リーグを行い、各リーグの1位・2位のチームによる決勝トーナメント行うものとする。
ただし、参加チームが多数あり、所定の時間内に大会を終了することが困難であることが予想される場合には、試合形式を変更し全参加申込みチームに通知等を行う。
- (2) 予選リーグは1セットマッチ11ポイント制、決勝トーナメントは3セットマッチ11ポイント制で行うものとする。
- (3) 両チームが10ポイントに達したときは、2ポイント差がつくまで試合を継続する。
- (4) 予選リーグにおいて勝敗数が同じチームが複数ある場合は、失点数の少ないチームを上位とする。失点数が同数である場合は、チームの代表者によるじゃんけんで勝ったチームを上位とする。
- (5) 組合せまたは試合順は、大会当日の代表者会議において抽選のうえ決定する。

2 競技方法

- (1) コートはバドミントン用コートを使用するものとする。
- (2) チーム編成は、選手10名以内とし、ボランティアの参加を認める。
ただし、同時にプレーを行う人数は6人とする。
ただし、常時5名以上の「障害のある人」が競技していなければならない。
- (3) サーブは、コート内のサービスラインから行うものとするが、アンダーハンドサーブのみとする。
サーブは2回まで行えるが、ネットイン（相手チームの選手がボールに触れる前にネットに接触し相手コートに入った場合）は認めない。
- (4) サーブ権を得たチームは、その都度ローテーションを行う。

3 その他

- (1) 練習球は各チームで用意すること。
- (2) この要領に定めるもののほか大会の実施に必要な事項は、代表者会議で申し合わせ事項を設けて協議することとする。